

嶋田智明・大峯三郎・杉原敏道(編)

**実践 MOOK 理学療法プラクティス
膝・足関節障害
全身から評価・治療することの
意義と実際**

上島正光

(ハーベスト医療福祉専門学校理学療法学科)

実践 MOOK 理学療法プラクティスシリーズから、このたび待望の“膝・足関節障害”編が発刊された。待望のという少々大げさな感じもあるが、これまで膝関節・足関節において、解剖学や運動学といった基礎知識から臨床における具体的評価や治療戦略、さらにバイオメカニクスに至るまでを1冊にまとめた書籍がなかっただけに、やっと待ち望んでいたものが世に出てきたと非常に嬉しく思った。

“全身から評価・治療することの意義と実際”のサブタイトルが示すとおり、骨・関節疾患の治療においては、障害局所に対する知識・治療技術を持つことは当然のこと、さらに対象者を全身的に診る力が必要と言われる。というのも対象者が抱える問題は、対象者の身体の使い方に問題があることが多く、障害局所に改善がみられたとしても根本的な身体の使い方に変化がなければ、障害は再発することになるからである。

実際、近年における理学療法の変遷において、下肢からの運動連鎖が少しずつ注目されるようになり、今では下肢からの全身的アプローチが治療全体の位置づけの中で重要視されるようになった。

その下肢からの全身的アプローチを学習する際に、下肢の解剖学・運動学・疾患別知識・バイオメカニク

スなどを学ぶことになるのだが、先にも述べたように、それらを1つにまとめている書籍というものが、あるようではなかなか無い。そういう意味合いから、本書は待望のシリーズであり、著者が“対象者をどうにかして治したい”という熱い想いを抱いていることが強く感じとれる一冊となっている。

本書は膝関節・足関節の基本的な解剖学や運動学を再確認することにはじまり、対象者への具体的な評価の仕方、治療目的別における具体的な治療戦略の考え方、疾患別における具体的アプローチ方法、バイオメカニクスの側面から見た動作の捉え方など多方面の視点から膝・足関節を捉えようとしているところに特徴がある。

また、複数の著者で共著されていることから、最終的に目標としているものは同じながら目標に至るまでのプロセスが多様々で、色々な思考過程を感じとれることも特徴のひとつであり面白い。

これから膝関節・足関節について本格的に学び、下肢からの運動コントロールを学習したいと考える新人理学療法士、あるいは日々の臨床において新たなエッセンスを得たいと感じている理学療法士の先生にとって、本書はかけがえのない一冊になるのではないだろうか。

『your idea×new essence』

～日々の臨床思考に、新たなエッセンスを～

本書を読むことで、明日からの臨床に新たな楽しみを見つけることができる。それは理学療法士本人にとって、またこれから出会う対象者にとって、かけがえのない幸せに繋がることになると信じている。

●B5版・244頁・2色刷

定価 5,250 円(本体 5,000 円+税)

2010 年 9 月 文光堂・刊